

平成22年3月31日

外傷に伴う低髄液圧症候群：前向き調査結果報告（速報）

外傷に伴う低髄液圧症候群の前向き調査について計画し、2008年9月から1年間の計画で症例登録が行われた。前向き調査エントリー用紙送付先は以下の通りである。

1. 日本脳神経外科訓練施設長 A 項、C 項宛 1170 件
2008 年 8 月 25 日送付
2. 日本神経外傷学会会員 872 通
2008 年 9 月 4 日送付
3. 日本脊髄外科学会機関誌「脊髄外科」に同封発送 920 部
2008 年 12 月 1 日発送
4. 日本脳神経外科学会機関誌「Neurologia」に同封発送 8000 部
2008 年 12 月 4 日発送
5. 本学会機関紙「神経外傷」へ症例登録のお願いについて掲載
2009 年 3 月
6. 医中誌において低髄液圧症候群、脳脊髄減少に関する
学会発表や論文発表を行っている 92 施設の第一著者宛に発送

最終登録症例について

全登録症例数： 25 例

全登録施設数： 12 施設

除外症例：2 例

外傷（一） 2 例

除外症例を除いた全 23 例について、本学会ガイドラインによる診断基準を満たしているかを中心に全例に対して作業部会によって検討した。記載項目で判断できなかった 21 例については主治医とのカンファレンスを行い判断した。

登録症例 (n=23) の全体像

性別： 男性 10 例 女性 13 例

平均年齢： 35.9 歳 (14-75)

外傷の原因：

交通外傷 15 例

スポーツ 4 例

転落 2 例

不明 2 例

頭部外傷の有無：

有：頭皮・頭蓋へ直接的外力が及んだもの 11 例

無：その他のむち打ち損傷などの外傷 5 例

不明 7 例

全登録症例の作業部会における最終判断

外傷に伴う低髄液圧症候群

確診例 4 例

非確診例 19 例

非確診例とした判断理由 (重複有)

外傷からの期間	4
画像所見	16
髄液圧	9

非確診例の特徴について以下の表に記載する。

非確診例と判断した症例の特徴について	
受傷機転	<ul style="list-style-type: none">・ 交通事故が多い
発症や診断までの時間	<ul style="list-style-type: none">・ 受傷から発症までの期間が長い・ 受傷から診断までの期間が長い
症状	<ul style="list-style-type: none">・ 起立性頭痛が非典型的な例が多い
画像	<ul style="list-style-type: none">・ MR I 硬膜増強像を呈する症例がない・ 直接的に髄液の漏出を示す画像は殆んどない・ 腰部からの漏出が多い
治療と経過	<ul style="list-style-type: none">・ 安静・補液を行った症例が少ない・ E B P から効果発現までが長い・ 完治例が少ない

前向き調査の結果について、その詳細については本学会機関紙に報告を予定している。